

赤色防虫ネット直がけ被覆が害虫の発生に及ぼす影響

～茶の有機栽培で利用できる防虫技術～

茶の有機栽培で問題となっているチャノミドリヒメヨコバイ（以下、ヨコバイ）およびチャノキイロアザミウマ（以下、アザミウマ）に使用できる防除技術を検討しました。0.8mm × 0.8mm 目合いの赤色防虫ネットを茶樹に直がけ被覆することで、ヨコバイおよびアザミウマのたたき落とし捕虫数やアザミウマによる新芽被害率の減少が確認されました。

1. 背景と目的

近年、海外での緑茶ブームの影響から茶の輸出量、輸出額共に増加しており、茶を取り扱う業者からは、さらに需要の見込める有機栽培茶の生産が求められています。しかし、茶の有機栽培では主要害虫であるヨコバイに使用できる農薬はなく、アザミウマに使用できる農薬も限られていることから、これらの害虫による被害が問題となっています。そこで、茶樹への侵入防止と被害低減を目的に赤色防虫ネットの直がけ被覆の効果を検証しました。

2. 研究成果の概要

大和茶研究センター内の‘やぶきた’ほ場で、一番茶摘採13日後（5月26日）に一番茶摘採面より6cm下で浅刈り剪枝およびすそ刈りを行い、除虫菊乳剤3を散布後、0.8mm × 0.8mm 目合いの赤色ネット（サンサンネットクロスレッド XR-2700、日本ワイドクロス（株））を畝のすそ部、地上約15cmまで覆うように直がけ被覆した畝（ネット区）と無被覆の畝（無処理区）を設けました（図1）。被覆は被覆開始44日後（7月9日）の二番茶摘採当日に除去しました。



図1 赤色ネットを直がけ被覆した畝

被覆期間中のネット区のヨコバイたたき落とし捕虫数は無処理区と比較して約55～65%減少、アザミウマ捕虫数は無処理区と比較して約70～100%減少しました（図2、3）。また、ネット区のヨコバイによる新芽被害率は無処理区と同程度、アザミウマによる新芽被害率はネット区で無処理区と比較して約80%減少しました（データ省略）。

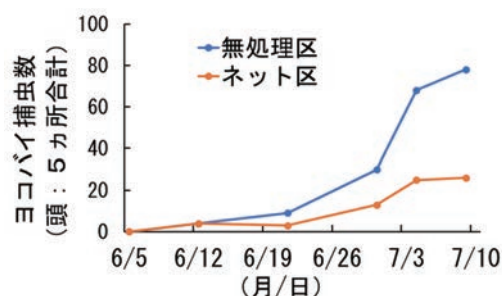


図2 たたき落としで捕虫されたヨコバイの推移

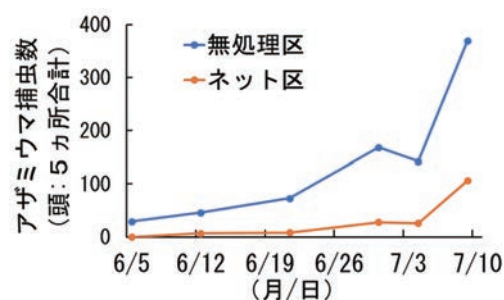


図3 たたき落としで捕虫されたアザミウマの推移

3. 実用化に向けた対応

赤色防虫ネットの直がけ被覆は有機栽培茶生産におけるアザミウマ対策として利用できることが分かりました。一方、赤色防虫ネットの直がけ被覆のみでのヨコバイ対策は困難であったことから、他の防除技術と組合せた防除方法を検討したいと考えています。

（大和茶研究センター 梨原嵩司）